

アル・アンダルスのアラビア語

—統語論からのアプローチ(1):「数」, 重文, 複文の扱い—

石原忠佳

はじめに

「南スペインのアラビア語における言語学的諸相」『地中海学研究』XX (1997), p.125-51 をさきがけとした, いわゆる西方アラビア語口語の品詞論的側面をとりあげた拙論は, 「アル・アンダルスのアラビア語: 派生動詞パラダイムの比較」『創価大学外国語学科紀要第15号』, (2005), p.109-129 をひと区切りに, その論旨を終結し, 前回の17号からは視点を統語論的立場に転じて, 二節にわたってアラビア語の名詞連辞をとりあげた (2007), p.57-81

引き続き「統語論的立場(2)」第3節として, 文法上の「数」の扱いをはじめとする統語上の特質を明らかにする予定であったが, 今年度人間学科開設により, 『外国語学科紀要』は新たに『創価人間学論集』として創刊されることになったため, タイトルに若干の修正を施し, この項目を第1節として論を進めることにした¹⁾。そこでひとまず, ここまでテーマとしてきたアル・アンダルスのアラビア語についての概観を整理し, これまでの論旨を確認しておきたい。

「アル・アンダルスのアラビア語」は通常 Spanish Arabic と呼ばれ, 中世イベリア半島で8世紀初頭から18世紀初期まで使用されたアラビア語の変種である。古典アラビア語や古い時代に北アフリカで使われていたアラビア

語口語を基盤として形成され、イベリア半島に導入されたが、その後当時のロマンス語（中世スペイン語）の影響を被り、さらに形を変えていったのがアル・アンダルスのアラビア語である。現在ではそのままの形で話されることはなく、死語となっているが、イベリア半島から追放されたアラブ人の子孫がモロッコをはじめとする北アフリカに居住していった際に、仲間うちではこの変種アラビア語を保持してきた。したがって南スペインに端を発する伝統音楽の中で今日でも健在であることから、厳密には決して「死語」とは定義できない。

さて、アル・アンダルスのアラビア語は他のアラビア語口語と比較して、際立った特質を示すが、それは単に中世スペイン語（ロマンセ）がもたらした影響を指摘するだけでは十分ではなく、イベリア半島に入植した人々の中に多くのベルベル人が含まれていたという当時の歴史的背景に言及する必要がある。初期の入植者たちの多くはアラブ人ではなくベルベル人の男性であり、南スペインの女性と通婚したため、次世代の子供たちは母親の母語である中世スペイン語や、父親の母語であるベルベル語²⁾を聞いて育った。いっぽうで彼らは教養語としてのラテン語を学び、他方ではイスラーム支配層が使用していたアラビア語を文語として身につけていった。多言語使用地域であった当事の南スペインは、このように言語的にも文語と口語の二つの側面でさまざまな様相を呈していて、こうしたいきさつを経て成立したのがアル・アンダルスのアラビア語である。

1 文法上の「数」に関して

1-1 女性名詞複数形の扱い

古典アラビア語においては、人間以外のものに言及する名詞の複数形は、文法上女性単数として扱われるが、アル・アンダルスのアラビア語では無生物に言及する名詞の複数形はこうした扱いを受けない³⁾。

alsahāb allī yusāqu⁴⁾ 「運ばれた雲<複数>」

alṣuxūr alṭiqāl⁵⁾ 「重い岩石（複数）」

alkutub al'izām⁶⁾ 「偉大な本 (複数)」

aldiyār alkibār⁷⁾ 「大きな家 (複数)」

aṭma'annū qulūbhum⁸⁾ 「彼らの心は安らいだ」

しかしながら、時には女性名詞複数形に対応する動詞の活用に、単数形が用いられた例も確認されている。

tijī a'wām⁹⁾ 「年 (複数) がやってくるだろう」

ḍukirat almudun¹⁰⁾ 「それらの町が引き合いに出された」

Alc. *mirār quiċċira* 「何回も」

1-2 名詞双数形の扱い

アル・アンダルのアラビア語では名詞双数形を明確に区別するが¹¹⁾、これを修飾する形容詞および動詞には複数形に対応する。

'aynaynan sūd kibār¹²⁾ 「大きな黒い目」

marāṭaynan ra'awh¹³⁾ 「彼を見た二人の女性」

しかしながら、時として修飾する形容詞に単数形を用いたり、動詞が女性単数形の活用を持つ例も確認されている

qālat.... 'aynayn¹⁴⁾ 「両眼が語った」

ḫubzatayn takfīnī¹⁵⁾ 「二切れのパンで私は十分だ」

alkarmayn alma'lūma¹⁶⁾ 「その二つのよく知られたブドウ畑」

1-3 集合名詞の扱い

集合名詞の動詞活用には通常は男性形に対応するが (①の例)、時には女性形を使用することもある (②の例)。さらには複数形の使用も確認されている (③の例)。

jā bimā jā li'uššahā alḫuṭṭāf¹⁷⁾①

「彼はツバメたちが巣に運んできたものを持ってきた」

alḫayr tiwalwal¹⁸⁾②

(40)

「鳥たちはさえずる」

raja‘at alġanam laldār¹⁹⁾ ……②

「羊たちは家畜小屋に戻った」

albaqar yatġammarū²⁰⁾ ……③

「牛の群れは騒ぎ立てている」

1-4 倒置法

アル・アンダルスのアラビア語において主語と述語の倒置はネオアラビア語の場合と同様に、強調用法として多くの資料で確認されている。

ħalāl hu²¹⁾ 「それ（彼）は合法である」

alsiħr naqūl²²⁾ 「私は魔術をとる」

zawj ummak nakūn²³⁾ 「私はお前の母の夫だ」

2 重文の扱い

アル・アンダルスのアラビア語における重文や複文の形態は、ネオ・アラビア語や古代アラビア語の素性を引き続き保持しているが、使用される接続詞は次第に減少の一途をたどってきた。

2-1 等位接続詞

/fa/ および /tumma/ の使用はきわめて稀で、前者はもっぱら「理由」を示す節を導く接続詞として使用された例が確認されている。

lā tināfiq falġurāb qutil binifāqu²⁴⁾

「君は偽善者になるな、なぜならカラスはその偽善のために死んだのだから」

2-2 分離接続詞

代表的な分離接続詞である /aw/ や /imma/ (</immā/ を用いた例文が多く確認されている²⁵⁾。

alsalaf immā ‘adāwah wa- immā talaf²⁶⁾

「借金は敵対や損失の原因となる」

この /imma/ という形態は Alcalá において *emi* となった。

Alc. *emi di* = *amdi amidi* 「いずれか一つ」

2-3 反意接続詞

代表的なものに /walákin/ と /illá/(<illí) があり, 時には「しかし」の意味が転じて「さらに」の意となった。この形態は Alcalá において *léquin* となった。

3 複文の扱い

3-1 名詞節

節の名詞化に関しては古典アラビア語同様, アル・アンダルスのアラビア語においては以下3つのいずれかの手段によって対応した。

- ① 動名詞 “*maṣdar*” もしくは分詞の使用が古典アラビア語や古代アラビア語で顕著であるが, ネオ・アラビア語でも若干の例が確認されている。

*walṣawāb ‘indī inṭilāqu*²⁷⁾

「そして私にとって正しいことはそれが開放されることである」

*dun eṭṭifecédu*²⁸⁾ 「それを変えることなしに」 <{fsd}

- ② 従属節を名詞化する接辞として接続詞 /an/ を使用した²⁹⁾

*nirid an niqqabal*³⁰⁾ 「私は接吻をしたい」

*naj‘al alhāsīd an yaḥsud*³¹⁾

「私は羨望家に対して羨望するようにしむける」

*ḥalaf anna lam yaqullī kadālik*³²⁾

「彼は私にそのようなことは言わなかったと誓った」

*nargābu yne yaātīna*³³⁾ 「我々は我々に与えるように望む」

(42)

*guéjeb aâlīq en tezuéja*³⁴⁾ 「あなたは彼女と結婚しなければならない」

*cunt tedrī énme quin yahléf*³⁵⁾

「あなたは彼が誓っていたことを知っていた」

さらに /ma/ も節を名詞化する接辞として機能した。

*ba'd mā qāl āh*³⁶⁾ 「ハイと言った後に」

*lawlā mā anta qādi*³⁷⁾ 「もしあなたが裁判官でなかったなら」

*abat mā tadūr*³⁸⁾ 「彼女は戻ることを拒んだ」 (abat <{'by})

*lisabab mā kānat wālidatuh musulimah*³⁹⁾

「彼女の母がイスラーム教徒であったという理由で」

- ③ いかなる接辞も使用せず、単に二つの単語を並列する例はすでに古典アラビア語や古代アラビア語で確認されていたが、ネオ・アラビア語でもこの傾向が顕著になり、結局 /an/ が消失することになった。

*lis najjarà nusammih*⁴⁰⁾ 「私は彼を指名する気にはなれない」

*tirīd tarā*⁴¹⁾ 「あなたは見たいですか」

*tehtīju tedrū*⁴²⁾ 「あなたがたは知らなければならない」

3-2 理由を示す副詞節

理由を示す副詞節には、/li'anna/ をはじめ、さまざまな接続詞が使用された。

li'anna/: *li'anna fih ḡaṣlatayn*⁴³⁾

「なぜならば彼は二つの性格を持っているから」

*liéne anī nazmāâ*⁴⁴⁾

「なぜなら私には聞こえるから」

/anna/: *anna 'ād lam yamut aban quzmān*⁴⁵⁾

「Aban Quzmān はまだ死んでいないので」

anna ... lis lī fī al‘ayš maṭma⁴⁶⁾

「私には生きる希望はないので」

/id/: id qad kafānī allah ṣudā‘u⁴⁷⁾

「なぜなら神が彼の頭痛を取りのぞいてくれたので」

/kamá/: sīdī mašgūl kamā ṭala‘ lalruqād⁴⁸⁾

「私の主人は忙しい, なぜならば今ちょうど寝るために上がっていったから」

kamā lam yiḡabbarūh⁴⁹⁾

「彼に知らせなかったばかりに」

/‘al yáddi (an)/⁵⁰⁾ 「～によると」

さらに理由を示す接続詞として /lamma/ と /‘amma/ が確認されている

lammā hu ‘āqil⁵¹⁾ 「彼は思慮深いので」

‘ammā altaman almundafa‘ kān māl ibnah⁵²⁾

「支払われた代金は彼の息子の金だったので」

3-3 目的を示す副詞節

/fi ḥāqqat/: fī ḥāqqat yuqāl lidā ‘anbarī⁵³⁾

「これが『琥珀』と呼ばれるように」

fī ḥācat qui yahléf⁵⁴⁾

「彼が誓うように」

/bāš/ および /bīš/:

aš na‘mal bāš naṭnī ‘alayh⁵⁵⁾

「彼をほめるために私は何をしようか」

baš tiḥibbu⁵⁶⁾

「君がそれを愛するように」

/bāš/ は後の時代には, 前置詞 /fi/ との組み合わせで /fāš/ あるいは /fīš/ と

(44)

して登場する例が確認されている

faš yatmatta⁵⁷⁾

「彼が楽しむように」

fiš yabğuđ alχamr⁵⁸⁾

「彼がワインが嫌いになるように」

さらに /fiyaš/ という形態も確認されている⁵⁹⁾

/an/: jānī an yaftaqad ḥalī wa-an yarānī⁶⁰⁾

「彼は私の近況を尋ねるために私に会いに来た」

jīna an na‘malū χašā⁶¹⁾

「われわれは動物を去勢するために来た」

maḍayt an nazur⁶²⁾

「私は訪問しに行った」

しかしながら、名詞化をつかさどる接続詞 /an/ は時には省略されることがあり、とりわけ自動詞 /ja/ の後方でこの現象がみられる。

idā jīt taqlī sawfa tadri⁶³⁾

「君が揚げ物をしにすれば理解できるだろう」

ḥul baynī wabaynu ḥattà lā nalqāh⁶⁴⁾

「私が彼に会うことのないよう、私を彼から遠ざけてください」

/la‘ál/: ‘annaqnī la‘al nastarīh⁶⁵⁾

「私が休めるよう私を抱擁してください」

/quibál/: quibél yeqdél yconfessarhum⁶⁶⁾

「彼が彼らに告白できるように」

/kamā/: quemé yuđcáru⁶⁷⁾ 「あなたがたがそれを覚えているように」

quemīx⁶⁸⁾

「～しないように」

3-4 時を示す副詞節

/matá(ma)/: matà ma jīt⁶⁹⁾ 「私が来る時に」

matà ḥabbū⁷⁰⁾ 「彼らが望む時に」

/ḥín/: ḥīn naṣṭabaḥ⁷¹⁾ 「私が朝一杯(酒)飲む時に」

ḥīn azvext maâ amrátaq⁷²⁾

「あなたがあなたの奥さんと結婚した時に」

/kamá/: kamā jīt min annazāhah⁷³⁾

「私が遠足から戻ってきた時に」

/idá(ma)/: tumma yaḍḥak lak idā laqītu⁷⁴⁾

「あなたが彼に会うと、彼はあなたのことをあざ笑うだろう」

idā nanfaḍ min almarāt anī namšī⁷⁵⁾

「その女性との関係を絶ったとき、私は立ち去るだろう」

/id/: id yara rūḥu alkaḡad bayn iddayk⁷⁶⁾

「その紙があなたの眼前に姿をあらわす時」

/lamma/: lammā jīt ilayk⁷⁷⁾

「私があなたのもとに来たとき」

/kúllima/ 「～するたびに」:

kúllima šīḡnā aḡtar širnā subyan⁷⁸⁾

「我々は年をとればとるほど子供に戻っていく」

/(min)qabal an/ 「～する前に」:

wa-šatafī ‘alayh min qabl an yajī almawt⁷⁹⁾

「死がおとずれる前にそれを楽しみなさい」

/bá‘di ma/ 「～した後で」:

ba‘d mā kān al-šarāb mawjūd qad šār ‘adam⁸⁰⁾

「ワインはずっとそこにあったが、なくなってしまった」

/sá‘at ma/ 「～するやいなや」

sā‘at mā raytu⁸¹⁾

「私が彼を見るやいなや」

3-5 条件を示す副詞節

古典アラビア語同様に、アル・アンダルスのアラビア語では条件を示す副詞節を導く接続詞に /in/, /id(ā)/, /law/ のいずれかを用いている。これらの接続詞を含む副詞節は意味上は大きな相違はないが、統語論上の構造に若干の違いがある。そのうち最も一般的な条件節は /in kán/ によって導かれる。

in kán yamūt⁸²⁾ 「もし彼が死んだら」
 yquġn énte necġit⁸³⁾ 「もしあなたが忘れたら」

この /in kán/ の形態は、次第に /ki(n)/ に移行したことが確認されている。

ydé qui tucún leq máudaâ⁸⁴⁾ 「もしあなたに機会があれば」

したがって非現実的事柄の描写には、/law ki(n)/ が使用された事実も確認されている。

law kán falbūm ḡayr mā kiyyaslam ‘ala alṣayyāda⁸⁵⁾ 「もしミミズクに何かの価値があったなら、それらのハンターたちから逃れることはなかっただろう」

さらに、従来古典アラビア語では大過去（過去完了）を示す際に用いられていた /kāna/+完了形 の形態は、アル・アンダルスのアラビア語では単なる過去時制を示す際に用いられるようになった。

kin atnabbahat⁸⁶⁾ 「彼女は思い出した」
 ka-starāḥ⁸⁷⁾ 「彼は休息をとった」
 ka-š‘ālu⁸⁸⁾ 「彼らは火をつけた」
 ka-ftadāḥat⁸⁹⁾ 「彼女ははずかしい思いをした」

アル・アンダルスのアラビア語において条件節に /in kán/ を、また帰結の主節に /ka/ あるいは /kġn/ を導入する用法があるが、モロッコ・アラビア語ではいずれの節にも /lukan/ を筆頭に置くことで同様の意味の表現となること

が指摘できる⁹⁰⁾。さらに /kán/ または /kĪn/ が, アル・アンダルスのアラビア語において未完了時制とともに用いられていた事実も, モロッコ・アラビア語における未完了時制とともに使用される接頭辞 /ka-/ の存在を説明できよう。言い換えれば, 従来は(可能法的)婉曲表現——英語における“would”の使用——として未完了形とともに用いられていたこの接頭辞が, 現代モロッコ語では通常の未完了形動詞の接頭辞に移行した点は興味深い⁹¹⁾。

さて以下のような条件節では, 主節の前に置かれる接続詞が省略され, 前方の従属節に並置されるので, しばしば時を示す副詞節と混同される場合がある。

kiy-kakūn dā algars fī mars kiyyajī abrīl yaṣīb bukayru⁹²⁾ 「もしこれが3月に植えられていたら, 4月には最初の産物が収穫されていただろう」

kunt tajrī min qabl mā tudbaḥ wa-‘unnayyaqak barī⁹³⁾ 「もしあなたが首を切られる前に走っていたら, あなたの小さな首は無事だったであろう」

3-6 相関関係を示す副詞節

相関関係 (correlative) を示す成句として, /mán/ 「～する人はすべて」, /āšma/ 「～するものはすべて」, /kūlli ma/ 「～すればするほど」, /ašḥāl/ 「どんなにたくさん～しても」, /kifma/ 「どのような方法で～しても」などを用いた例が確認されている。

man yaqūl lā narmī fī ‘unqu luṭayma⁹⁴⁾

「否定する人すべてに, 私は首すじ打ちを食らわす」

ašmā katabt anta qarayt anī⁹⁵⁾

「あなたがどんなことを書いても, 私は読むことができる」

kull mā kān amarr hu aḥlā⁹⁶⁾

「苦ければ苦いほどそれは甘味である」

ašḥāl tākul ṣāyim tuṣbiḥ⁹⁷⁾

「どんなに君がたくさん食べたところで, 朝になったら断食だ」

kayf mā yabī' alsāriq balfadl hu⁹⁸⁾

「泥棒がどのような方法で売ったとしても、それは彼の儲けである」

3-7 様態を示す副詞節

様態を示す副詞節「～のように」および仮想の現実を想定する接続詞「あたかも～のように」の使用では、以下の例が確認されている。

/kíf/: : quif yaâmel⁹⁹⁾ 「彼がおこなったように」

/biḥāl/: biḥāl id bātāt fī ṣahrīj¹⁰⁰⁾

「あたかも彼女が井戸で夜を明かしたように」

/ka'án/: ka'annu mā kān¹⁰¹⁾ 「あたかもそうではなかったかのよう」

/mītl/: mītlī mā qultu fīk¹⁰²⁾ 「私があなたについて言ったように」

/kamá/: kamā aḫadt lā budd an niḫallī¹⁰³⁾

「私は奪ったように放棄しなければならない」

さらに「同時性」を示す際には、接続詞 /wa/ を使用する場合と単なる並列による場合の2通りの例が確認されている。

naqullak wafummī dūn lu'āb¹⁰⁴⁾

「私は君に言っているが、口にはもう唾がなくなっている」

maḏa qirdī quddāmī yatqazzal¹⁰⁵⁾

「私の眼前の不幸はびっこを引きずりながら立ち去った」

[以下次号に続く]

略語

(Dc.) = Ayala, M de: *Doctorina Christiana en lengua arabiga y castellana*, Valencia, 1566.

(De.) = Dozy, R. & Engelmann, W. H.: *Glossaire des mots espagnols et portugais dérivés de l'arabe*, Leiden, 1869.

(N.) = Neuvonen, E. K.: *Los arabismos del español en el siglo VIII*, Helsinki-

- Leipzig, 1941.
- (Alc.) = Alcalá, P. de: *De lingua arabica libri duo (Arte & Vocabulista)* (ed. P Lagarde). Göttingen, 1883.
- (Va.) = Schiparelli, C.(ed.): *Vocabulista in Arabico*, Florence, 1871.
- (Vr.) = Vox Romania
- (La) = 'Abdattawwāb, R.(ed.): *Laḥn al-'awāmm (ta'līf Abī Bakr Madḥij al-Zubaydī)*, Cairo, 1964.
- (Lat.) = 'Abdattawwāb, R.: *Laḥn al-'amma wattatawwur alluḡawī*, Cairo, 1967.
- (Stg.) = Steiger, A.: *Contribución a la fonética del hispanoárabe y de los arabismos del ibero-románico y el siciliano*, Madrid, 1932.
- (Stn.) = Steiner, R.: *The case for fricative-laterals in Proto-Semitic*, New Haven, 1977.
- (IQ) = García Gómez, E.: *Todo Ben Quzmān*, Madrid, 1972,
- (ZM) = 'A. Maṣar.: *Laḥn al-'amma fī ḡaw' addirāsāt alluḡawiyyah al-ḥadīṭah* Cairo, 1967
- (Dz) = Dozy, R.: *Supplement au dictionnaires*, Leiden 1881,
- (Mi) = Barceló, C.: *Minorías islámicas en el país valenciano*, Madrid-Valencia. 1984.
- (Z) = Binšarlīfah, M.(ed.): *Amṭāl al-'awāmm fī l'andalus li Abī Yahyá Azzajjālī*, Fez, 1971-5.
- (IA) = 'A. Al. Ahwānī: "Amṭāl al-'āmmah fī L'andalus," *Ilá Tāhā ḥusayn*, Cairo, 1962.
- (Gl) = Seybold, Ch.(ed.): *Glossarium latino-arabicum ex unico qui exstat codice Leidense.....*, Berín, 1900
- (IH) = 'A. Al. Ahwānī: "Alfāz maḡribiyyah min kitāb Ibn Hišām allayḡmī fī Laḥn al-'āmmah," *Revue de l'Institut des Manuscrits de la Ligue Arabe* 3, 1957.
- (J) = 'Abd Al.Wahhāb, H. H, .(ed.): *Al-jumāna fī izārat al-riṭāna*, Cairo, 1953.
- (MT) = Gonzales Palencia, A.: *Los Mozárabes de Toledo en los siglos VII y VIII..* 4 vols. Madrid, 1936.
- (LAA) = Corriente, F.: *El léxico árabe andalísí según Pedro de Alcalá*, Madrid, 1988.
- (PES) = Corriente, F.: *Poesía estrófica atribuida al místico granadino Aš-šūštārī*, Madrid, 1988
- (Hv) = Harvey, L.P. "The Arabic Dialect of Valencia" in *Al-Andalus* 36, 81-115, 1971
- (Hb) =Hoenerbach, W. *Spanisch-islamische Urkunden aus der Zeir der Naṣriden und Moriscos*, Bonn, 1965.

(50)

(IZ) = Corriente, F., "Catorce cejeles de Ibn Zamrak y uno de Ibn Alxaṭīb" in *Anaquel de estudios árabes* 1, 1-33, 1990

(Hh) = Hoenerbach, W. *Die vulgärarabisch Poetic al-kitāb al-'ā ṭil al-ḥālī..... des safiyaddīn Ḥillī*, wiesbaden, 1956

註

- 1) 本来、註にも同様に通し番号をつけて註113とする予定であったが、こちらも新たに註1としてそれぞれの項目に対応させた
- 2) 「ベルベル人」に関する詳細は、石原 (2006) 『ベルベル人とベルベル語文法』新風舎、(2005)、
「アンダルシア史のなかのベルベル人」『南スペイン・アンダルシアの風景』、丸善ブックス
p. 235-243、(2007)、「多言語国家としてのスペインとモロッコ」『世界の言語政策 (2)』くろ
しお出版、p. 201-234、等を参照のこと
- 3) 拙著『モロッコ・アラビア語』大学書林 (2000), p.12 「文法ワンポイント」
- 4) IQ 5/5/4
- 5) Ibid., 87/1/4
- 6) Ibid., 94/22/2
- 7) Z 49
- 8) E. Garcia Gomez, *Un Texto árabe occidental de la Leyenda de Alejandro.....*,
Madrid, 1929, 14.6
- 9) IQ 38/1/2
- 10) Z 963
- 11) 石原 (2002) 「アル・アンダルスのアラビア語：品詞論的立場から (2) 一性、
数、代名詞―」『外国語学科紀要第12号』 p.60 を参照のこと
- 12) IQ 112/3/3
- 13) Ibid., 2/5/2
- 14) Ibid., 73/1/2
- 15) Z 904
- 16) MT 78.2
- 17) IQ 96/13/4
- 18) Ibid., 28/0/2
- 19) Z 974
- 20) Ibid., 362
- 21) Ch.Seybold(ed.) *Glossarium latino-arabicum ex unico qui exstat codice
Leidense.....*, Berlin (1900), 189
- 22) IQ 1/7/1

- 23) Z 1058
- 24) IQ 5/7/4
- 25) その主な文献は, Schiparelli, C.(ed.): *Vocabulista in Arabico*, Florence, 1871.
および Binšarlīfah, M.(ed.): *Amṭāl al'awāmm fī l'andalus li Abī Yaḥyá Azzajjālī*, Fez, 1971-5.
- 26) Z 133
- 27) IQ 5/9/4
- 28) DC 15
- 29) アル・アンダルスのアラビア語においては, /an/, /anna/, /inna/ の3種の接続詞は厳密な区別なしに使用されていたとの報告がある; Corriente, F, *Arabe Andlusi y lenguas romances*, Madrid (1992), p.116
- 30) IQ 2/8/2
- 31) Ibid., 3.2.
- 32) Ibid., 9/1/2
- 33) Alc. 39/21
- 34) Ibid., 43/2
- 35) Ibid., 42/6
- 36) IQ 9/0/1
- 37) Ibid., 44/5/3
- 38) Z 1861
- 39) MT 945/4
- 40) IQ 2/0/2; また /najjarrà/ </natjarrà/ <{jr'}; 派生形第V型の接頭辞 /t-/ が後方の子音に同化される現象については, 石原 (2004), p.79 参照
- 41) Z 705
- 42) Alc. 33/2
- 43) IQ 4/5/3
- 44) Alc. 39.17
- 45) IQ 96/14/2
- 46) Hoenerbach, W. *Die vulgärrabisch Poetic al-kitāb al-'ātil al-ḥālī..... des safiyaddīn Ḥillī*, wiesbaden, 1956, p.18 以下 Hh と略す
- 47) IQ 18/1/1
- 48) Ibid., 88/2/3
- 49) García Gómez E. *Un texto árabe occidental de la Leyenda de Alejandro... ..*, Madrid, 1929. p.17
- 50) IQ 2/1/1
- 51) Ibid., 4/6/3
- 52) MT 1066/7

(52)

- 53) IQ 133/3/5
- 54) Alc. 42/4
- 55) IQ 33/9/3 ; なお目的を示す接続詞 “baš” は今日のモロッコアラビア語でも健在である。石原 (2000), p. 113
- 56) Z 422
- 57) IA 542
- 58) Hb 363
- 59) Harvey, L.P. “The Arabic Dialect of Valencia” in *Al-Andalus* 36, 1971, p.95
- 60) IQ 13/1/2
- 61) Z 711
- 62) PES 56/6/4
- 63) Z 13
- 64) IQ 7/16/1-2
- 65) *Ibid.*, 145/9/3 ; 古典アラビア語においては {nq} の第Ⅲ型に「抱擁する」の意味があるが, アル・アンダルスのアラビア語では第Ⅱ型がしばしば第Ⅲ型に取って代わる例が確認されていることにもすでに触れた ; 石原 (2004), p.76 ; また /a‘ál/ がもつもう一つの意味「たぶん」については前号, 石原 (2007), 註13ですでにとりあげた。
- 66) Alc. 36.14 ; モロッコ・アラビア語では「理由」を示す接続詞として, /‘laqībāl/ が健在である : 石原 (2000), p.17
- 67) Alc. 33/13
- 68) アル・アンダルスのアラビア語に特有の否定の副詞 /iš/(-ix) に関しては, 前号の石原 (2007), 註55ですでにとりあげた
- 69) IQ 2/29/2
- 70) Gonzales Palencia, A. “Documentos árabe del Cenete (SigrosVII-XV)” in *AL-Andalus* 5, 1941, 346.16
- 71) IQ 119/4/1
- 72) Alc. 55.7 ; *azvéxt* < {zwj} : 動詞に先行する接頭辞 /a-/ は第Ⅰ型動詞における単なる音素上のバリエーションであることをすでに指摘した ; 石原 (2004), p.78
- 73) IQ 23/6/1
- 74) *Ibid.*, 6/5/3
- 75) “Nuevas notas de toponimia arábigo-granadina” in *Miscelánea de Estudios Arabes y Hebraicas* 4, 1955, 77~86
- 76) IQ 95/3/3 ; モロッコ・アラビア語では「紙」の意で “kaḡiṭ” が今日でも健在である。さらにチュニジア・アラビア語では同じ意味で “kāḡid” を用いる。
- 77) *Ibid.*, 11/8/3-4
- 78) *Ibid.*, 20/11/3; šixnā < {šyx}, širnā < {syr}

- 79) Ibid., 11/1
- 80) Ibid., 16/1
- 81) Ibid., 133/5
- 82) Ibid., 122/3/4
- 83) Alc. 42.16
- 84) Ibid., 45.25; *yde* < *ʔidā*/, *máudaā* < {wḏʕ}
- 85) IA 611
- 86) Z 960
- 87) “Catorce cejeles de Ibn Zamrak y uno de Ibn Alxaṭīb” in *Anaquel de estudios árabes* 1, 1-33, 1990, 2/1/1
- 88) Ibid., 8/6/4
- 89) Ibid., 11/4/2; *ftaḏáhat* < {fḏḥ}
- 90) 石原 (2000), p.157-161
- 91) Corriente (1977), p. 140-141. および 石原 (2000), p. 90-96
- 92) IA 606
- 93) Hh 16; *barī* < {brʕ}, *ʕunnayyaq* < {ʕnq}
- 94) IQ 10/8/3-4; *luṭayma* < {lṭm}
- 95) IA 80
- 96) IQ 132/5/2
- 97) IA 69; /ašḥāl/ は, モロッコ・アラビア語で値段をたずねる際に用いる疑問副詞 /šḥāl/ (</aš + ḥal/) を彷彿させる; 石原 (2000), p.77
- 98) Ibid., 592
- 99) Alc. 38/28
- 100) IQ 93/1/4
- 101) Ibid., 6/4/2
- 102) Ibid., 9/15/2
- 103) Ibid., 18/4/2
- 104) Ibid., 5/8/3
- 105) Ibid., 7/2/2

REFERENCES:

- Aguadé, Jordi & Benyahia Laila. *Diccionario árabe marroquí*, Quorum Editores, Cádiz, 2006
- Alcalá, Pedro de. *Arte para ligeramente saber la lengua arábigo y vocabulista arábigo en letra castellana*, Granada, 1505

- Barceló, C. "Nuevos fondos arábigo-valencianos." *Al-Qantara* 7, 1986
- _____, *Minorías islámicas en el país valenciano*, Madrid-Valencia, 1984
- Binšarlifāh, M.(ed.): *Amṭāl al'awāmm fi l'andalus li Abī Yahyá Azzajjālī*, Fez, 1971-5.
- Blau, J. *Diqduq ha'aravit hayhudit šel yme habeayim*, Jerusalem, 1980
- Busquets, J. "El código latino-arábigo del Repartimiento de Mallorca." *Boletín de la Sociedad Arqueológica Luliana*, 30, 1952
- Cantineau, J. *Études de linguistique arabe*, Paris, 1960
- Colin, G. S. 'L'arabe hispanique': in the entry "Al Andalus" of *Encyclopedie de l'Islam*, 1.
- _____, *Le dictionnaire Colin d'arabe dialectal marocain* (ed. Z. Sinaceur), Rabat, 1993
- Corriente, F. "From Old Arabic to Classical Arabic through the preislamic koine" *Journal of Semitic Studies* 21, 1976
- _____, *A grammatical Sketch of the Spanish Arabic dialect bundle*, Madrid, 1977
- _____, "Los fonemas /p/, /č/, /g/ en árabe hispánico", *Vox Romanica* 37, 1978
- _____, "A propos du préfixe proto-sémitique *{ma-} en fonction de morphème participial dans les conjugaisons dérivées du verbe", *Arabica* 26, 1979
- _____, *Gramática métrica y texto del cancionero hispanoárabe de Aban Quzmān*, Madrid, 1980
- _____, "Los romancismos del vocabulista en arábico," *Vox Romanica* 39, 1980
- _____, "Notas sobre la interferencia clásica en hispanoárabe", *Revista del Instituto Egipcio de Estudios islámicos* 21, 1981
- _____, "Apostillas de lexicografía hispanoárabe" *Actas de las II jornadas de cultura árabe e islámica*, Madrid, 1985
- _____, *El léxico árabe andalusí según Pedro de Alcalá*, Madrid, 1988
- _____, "South Arabian features in Andalusī Arabic." *Studia linguistica et orientalia memoriae Haim Blanc dedicata*, Wiesbaden 1989
- _____, *El léxico árabe andalusí según el Vocabulista in arábico*, Madrid, 1989
- _____, "Catorce cejeles de Ibn Zamrak y uno de Ibn Alxaṭīb" in *Anaqueel de estudios árabes* 1, 1-33, 1990
- _____, *El léxico árabe estándar y andalusí del «Glosario de Leiden»*, Madrid, 1991
- _____, *Arabe Andlusí y lenguas romances*, Madrid, 1992
- _____, "Linguistic interference between Arabic and the Romance Languages of the Iberian Peninsula" *The Legacy of Muslim Spain* (ed. Salma Jayyusi),

- Leiden-New York, 1992
- _____, *Introducción a la gramática comparada del semítico meridional*, Madrid, 1996
- _____, *A Dictionary of Andalusī Arabic*, Leiden, 1997
- _____, “On some features of late Granadian Arabic” *Peuplement e abisation au Maghreb Occidental*, Madrid-Zaragoza, 1998
- _____, “Arabismos dialectales del iberorromance central” *Estudios de dialectología norteafricana y andalusí* 3, 1999
- Derenbourg, H. *Notes critique sur les manuscrits arabes de la Bibliothèque Nationale de Madrid*, Paris, 1904
- _____, *Livre de Sibawaihi: traité de grammaire arabe / texte arabe publié par Hartwing Derenbourg*, Georg Olms 1970
- _____, *Étude sur l'épigraphie du Yemen / par Joseph et Hartwing Derenbourg*, Paris, 1882
- Diakonov, I. M. *Semito-hamitic language*, Moscow, 1965
- Dozy, R. *Supplément au dictionnaires arabes*, Leiden, 1881, I, 139.
- Ferguson, C.A. “The Arabic Koiné.” *Language* 35, 1959
- Ferrando, I. *El dialecto andalusí de la Marca Media en los siglos X III*, Zaragoza, 1995
- _____, “G.S. Colin y los berberismos del árabe andalusí” *Estudio de dialectología norteafricana y andalusí* 2, 1997
- García Gómez, E. *Un Texto árabe occidental de la Leyenda de Alejandro.....*, Madrid, 1929
- _____, *Todo Ben Quzmān*, Madrid, 1972
- Goitein, S.D. *Jemenica*, Leipzig, 1934
- González Palencia, A. *Los mozárabes de Toledo en los siglos VII y VIII*, Madrid, 1926
- _____, “Documentos árabe del Cenete (Sigros VII-XV)” in *AL-Andalus* 5, 1941
- Greenberg, J. H. “The Afro-Asiatic (Hamito-Semitic) present. *Journal of the American Oriental Society* 72, 1952
- Harvey, L. P. “The Arabic dialect of Valencia.” *Al-Andalus* 36, 1971
- Harrel, R. S. *A Dictionary of Moroccan Arabic*, Washington: Georgetown University Press. 1966
- Heijkoop, Henk., “A supplementary bibliography of Andalusī strophic poetry and its influence”, *Bibliotheca orientalis* vol 55, 1998
- _____, “Corrections and Additions to ‘A supplementary bibliography of

- Andalusi strophic poetry and its influence”, *Bibliotheca orientalis vol 58*, 2001
- Hergé, H. J. “Mutations vocalique dans les dialects hispano-arabe” *Arabica 28*, 1981
- Hoenerbach, W. *Die vulgärarabisch Poetic al-kitāb al-‘ā ṭil al-ḥālī.... des safiyaddīn Ḥillī*, wiesbaden, 1956
- _____, *Spanisch-islamische Urkunden aus der Zeir de Na ṣriden und Moriscos*, Bonn, 1965
- Höfner, M. *Altsüdarabische Grammatik*, Leipzig, 1943
- Ishihara, T. “Características fonológicas del haz dialectal andalusí” *Alfinge 11*, Cordoba University. 1999
- _____, “Some Morphological Remarks on Moroccan Arabic: with reference to the Spanish Arabic verb measure” *L’arabe dialectal: enquêtes, descriptions, interprétations Actes d’AIDA 6* 2006
- Johnstone, T. M. “Mehri Lexicon and English-Mehri word-list.” *School of Oriental and African Studies*, London, 1987
- Kuentz, Ch. “Aṭar alluḡah albarbariyyah fī‘arabiyyat almaḡrib” *Majallat majma‘ alluḡah al‘arabiyyah 8*, 1955
- Latham, J. D. “The content of the Laḡn al-‘awāmm...of...al-Sakūnī al-Iṣbīlī” *Actas del 1 Congreso de estudios árabes islámicos*, Madrid, 1964
- _____, “Arabic into Medieval Latin.” *Journal of Semitic Studies*, 17.1, 1972
- _____, *Loanwords from the Arabic in the latin translation of the “Calendrier de Cordoue”*, 1986
- _____, *From Muslim Spain to Barbary: studies in the history and culture of the Muslim West*, London, 1986
- _____, “Observation on some Arabic words and their meanings” *A Miscellany of Middle Eastern Artides in Memoriam Thomas Muir Johnstone*, 1988
- León Tello, “Cartas de población a los moros de Urzante” *Actas del 1 Congreso de estudios árabes e islámicos*, Madrid, 1964
- Lévy, S. “Problemes de géographie dialectale: states buttes témoins” *Dialectologie et Sciences humaines au Maroc*, 1992
- Mercier, H. *Dictionnaire arabe-français*, Rabat, 1951
- Monroe, James. *Zajal and Muwashshaha: Hispano-Arabic poetry and the romance tradition*, 1992
- Neuvonen, E. K. “Etimología de algunos arabismos del español.” *Neuphilologische Mitteilungen 40*, 1939
- Ould Mohamed Baba, A. S. *Estudio dialectológico y lexicológico del refranero*

hispanoárabe de Abū Ya hyâ Azzajjālī, Zaragoza, 1999

Romer, K. *Der Codex Arabicus Monacensis Aumer 238 (sp.ar.Evan-gelien handschrift)*, Leipzig, 1905

Schiaparelli, C. (ed.), *Vocabulista in arabico*, Florence, 1871

Seybold, Ch.(ed.), *Glossarium latino-arabicum ex unico qui exstatcodice Leidense...*, Berlin, 1900

Simonet, F. J. *Glosario de voces ibéricos y latinos usados entre los mozárabes*, Madrid, 1889, LXXXVII n.1.

Steiger, A. *Contribución a la fonética del hispano-árabe y de los arabismos en el ibero-románico y el siciliano*, Madrid, 1932

Steiner, R. *The case for fricative-laterals in Proto-Semitic*, New Haven, 1977

Tucker, A. N. & Bryan, M. A. *Linguistic analysis. The non-Bantu language of North- Eastern Africa*, London, 1967

Vollers, K. *Volskssprache und Schriftsprache in alten Arabien*, Strasburg, 1906

石原忠佳「イスラーム・スペインにおける言語事情：“Substratum”理論からの一考察」『東洋学術研究』31-2号（1992），125-41.

_____,「イベリア半島を離れたユダヤ人社会と言語：言語学的アプローチからみた Judeo-Spanish の変遷」『比較文化研究』第11巻（1993），195-217.

_____,「アラビア文字におけるクーファ体（Cufic）の特徴とその変遷：南スペイン史との関連から」『外国語学科紀要第6号』（1996），67-85.

_____,「南スペインのアラビア語における言語学的諸相Ⅰ」,『地中海学研究』XX,（1997），127-51.

_____,「古典アラビア語とアラビア語の諸方言化：エジプト口語とモロッコ口語の語彙比較から」『外国語学科紀要第8号』（1998），97-119.

_____,「Spanish Arabic に関する一考察：その歴史的背景と音韻的特質」『外国語学科紀要第10号』（2000），35-62.

_____,『モロッコ・アラビア語』大学書林（2000）

_____,「アル・アンダルスのアラビア語：品詞論的立場から（1）名詞，形容詞 定冠詞」『外国語学科紀要第11号』（2001），77-98.

_____,「アル・アンダルスのアラビア語：品詞論的立場から（2）性，数，代名 詞」『外国語学科紀要第12号』（2002），67-94.

_____,「アル・アンダルスのアラビア語：品詞論的立場から（3）動詞」『外国語 学科紀要第14号』（2004），71-112.

_____,「アル・アンダルスのアラビア語：品詞論的立場から（4）派生形動詞動詞 パラダイムの比較」『外国語学科紀要第15号』（2005），109-129.

_____,「アンダルシア史の中のベルベル人」『南スペイン・アンダルシアの風景』

丸善ブックス (2005), 235-243

_____, 『ベルベル人とベルベル語文法』 新風舎 (2006)

_____, 「多言語国家としてのスペインモロッコ」『世界の言語政策 (2)』 くろしお出版 (2006), 201-234.

_____, 「アル・アンダルスのアラビア語：品詞論から統語論へ (1) 名詞連辞」『外国語学科紀要第17号』 (2007), 57-81.